

男女共同参画の 視点からの復興 ～参考事例集～

第 26 版 (追加分のみ)

令和 4 年 10 月 26 日

復興庁男女共同参画班

一 男女共同参画の視点からの復興 参考事例集とは 一

「東日本大震災からの復興の基本方針」の基本的な考え方では、「復興のあらゆる場・組織に女性の参画を促進する」「子ども・障害者等あらゆる人々が住みやすい共生社会を実現する」としており、多様な生き方を尊重し、全ての人があらゆる場面で活躍できる男女共同参画社会の実現に向け、復興に当たっても、男女共同参画の視点が必要です。

復興庁男女共同参画班では、自治体や各地で活躍する方々の参考となるよう、まちづくり、仕事づくり、健康づくりなどの分野に関し、女性が活躍している事例や被災地の女性を支援している事例等を収集しています。

今後も、引き続き事例を収集し、公表していく予定です。



インデックスの凡例



各ページ右上のインデックスの凡例は、以下のとおりです。

各事例で該当する部分は色を濃くして表示しています。

まちづくり	行政と協働し、まちづくり計画の策定・提言、これからどのようなまちに復興していくか検討する取組	 岩手	 宮城	 福島	 広域
仕事づくり	就業支援、起業支援、産業の創出や地域経済の活性化に関する取組	まち づくり	仕事 づくり	健康 づくり	
健康づくり	心身の健康維持・増進のための取組	居場所 づくり	人材 育成	情報 発信	
居場所づくり	孤立を防止するための場づくりや、ネットワークづくり、地域の人が集まるスペースづくりなど、様々な人と交流や情報交換を行うための場を提供するための取組	その他			
人材育成	地域住民やNPO、自治体職員など、復興を担う人材を育成するための取組				
情報発信	復興に向けた被災地の現状を伝える取組や、東日本大震災の記録を残すための取組				

* 上記以外について重要なワードがあるものは、その他の欄を活用し、重要なワードを上書きしています。

目 次

分野	事例	実施主体など
まちづくり	1 子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすいまちを目指して	ワーカーズコープ 大槌地域福祉事業所 地域共生ホームねまれや

※事例が複数の分野にわたる場合は代表的なものに分類しています。

★印の事例は、既に掲載済みの事例ですが、その後の取組状況を追記しています。

119

子どもから高齢者まで 誰もが暮らしやすいまちを目指して

ワーカーズコープ大槌地域福祉事業所 地域共生ホームねまれや

令和4年9月現在



施設内では、多世代が交流できる機会が多くあり、新たなコミュニティを創出している。

取組主体

民間団体

対象者・受益者

高齢者、児童、障害児(者)、地域のすべての人

実施時期

平成24年7月～

活動地域

岩手県上閉伊郡大槌町大ケ口地区

キーワード

地域拠点、地域交流、世代交流

取組ポイント

岩手県大槌町にある、被災者もスタッフのワーカーズコープで、子どもから高齢者まで利用できる「共生ホーム」を運営している。通所介護施設、学童保育、障害児の日中一時支援など様々な事業を行いながら、地域の交流や課題解決の拠点となっている。

取組の背景・経緯

- ワーカーズコープ（労働者協同組合）は、そこで働く人たちがみんなで出資し、みんなで民主的に決めた目標に向かって事業を運営する、人と地域に役立つ良い仕事をつくり運営していく協同組合である。
（労働者協同組合法は令和4年10月1日施行であり、法施行前はNPO法人として活動していた。）
- 東日本大震災後に大槌地域福祉事業所が組織され、平成24年度から3年間、大槌町緊急雇用創出事業を受託し、町に必要な仕事づくりに取り組んでいた。現在の所長は、仮設住宅から公営住宅への転居の過程で働く中、発達障害のある子ども（当時、小学生）の預託先を探すなど「困りごと」が生じた。「子どもを職場に連れて来ればいいのか？」という同僚のアドバイスから、地域にはそういう家庭がほかにもあるのではないかと考え、子どもを預かるサービスを仕事にし、そこから様々な活動が始まった。
- 震災前から存在した家庭や地域の困りごとが、震災による人口減少などでコミュニティが希薄化した地域で顕在化していた。困りごとに対して誰もが支えあえる場所ができれば、という思いが新たな施設の開設に至った。

取組の概要

- 緊急雇用創出事業などの受託を経て、平成28年1月、地域福祉拠点施設「共生ホームねまれや」を開所した。「ねまれや」の「ねまる」は地域の方言で、「座ってお茶でものんでゆっくりする」という意味である。介護保険制度の地域密着型通所介護をはじめ、「ねまれや」施設内での「ぼこあぼこ」では、学童保育事業と監護者の就労などによる障害児（者）日中一時支援事業を基幹事業として行っている。
- 日中一時支援事業からの展開で、「地域活動支援センター心笑（こころえ）」も運営している。年齢を問わず、障害のある人の活動の場として、土曜日に余暇支援や社会参加のプログラムを実施している。
- 自主事業として、地域のニーズや「困った」がみつければ、解決に向けての方法としての新事業を開始する流れを作っている。子ども食堂、買い物ツアー、おちゃっこサロン（茶話会）、ものづくりサロン、介護予防体操など、交流と閉じこもり予防のイベントを開催している。施設内で菓子を製造・販売する「菓子工房さくさく」は、将来に向けて様々な立場の人の雇用の場となることを想定している。

工夫した点・特色

- 東日本大震災での個人や家庭の被害状況の違いにより孤独・孤立、ひきこもりを生じる状況もあったが、被災したスタッフも運営にかかわり、地域から誰もこぼれおちない支援のできる拠点を目指した。
- 人口が減っても家庭や地域の困りごとが減るわけではないことから、課題が小さなうちに受け止めて地域で支えあう「共生」の場所をつくることを目標に事業を展開した。
- 通所介護は、小規模で家庭的な雰囲気を大事にしているが、子どもや地域住民とのかかわりをもつことを考慮して建設した施設で行い、様々な世代が同じ空間で過ごせるようにした。
- 基幹事業は対象が限定されるが、誰でも参加できる自主事業やイベントを多角的に実施することにより、継続して参加する人の増加を促した。



取組の効果

- 基幹事業のほかに誰でも参加できる事業を展開したことで、施設や活動に集う人々が増え、地域のすべての人が交流できる拠点となり、もしもの事態に備えての地域づくりの拠点ともなっている。
- 町内では他団体が子ども食堂を公共施設でも行うようになり、震災前から地域の保健・福祉活動を展開してきた団体や企業とのネットワークも広がった。キャップハンディ学習などを通し、教育関係での連携を築くこともできた。地域内で、大きなネットワークとなっている。
- 施設や事業が、震災で仕事を失った人やひきこもりがちな人々の就労、社会参加の場ともなった。
- 被災地において、福祉の専門家ではなかった人々により始まった活動が、施設開所を経て地域の拠点となっていることが、地域の活力ともなっている。

利用者の感想

- 発達障害のある子が兄弟と一緒に「ぼこあぼこ」に通えて助かっています。（日中一時支援保護者）
- 赤ちゃん連れで参加したら、スタッフや小学生がみてくれて、久々にゆっくり食事ができました。家では野菜を食べない子がおいしそうに食べて驚きました。（子ども食堂参加保護者）
- 子どもたちがおいしいと食べてくれて嬉しいです。子どもや地域のために手伝えることは何かしたい気持ちです。（子ども食堂ボランティア）

助成金など支援・協働にかかわる情報

- 復興庁 被災者支援総合交付金
被災者支援総合事業「心の復興」事業
（大槌町）

連絡・問い合わせ先

特定非営利活動法人ワーカーズコープ大槌地域福祉事業所
地域共生ホームねまれや

〒028-1132 岩手県上閉伊郡大槌町大ケロ2丁目9-26

特定非営利活動法人ワーカーズコープ北東北事業本部

〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通4-9

TEL : 019-681-2091 FAX : 019-681-2092

Email : kthkb@roukyou.gr.jp

*掲載写真は地域共生ホームねまれやからの提供によるもの